

審議会等の会議の概要の記録

会議の名称	令和4年度 第1回甲州市未来会議
開催日時	令和4年6月13日（月） 午後7時から午後9時
開催場所	シェアオフィス甲州
議題	1 長期・短期提言について 2 ワークショップの開催について
出席委員	雨宮智信委員、雨宮康順委員、内田亜由美委員、小鳥居正恵委員、近藤巴委員、宿澤和也委員、松山典嗣委員、渡邊真輝子委員 (五十音順)
会議の公開又は非公開の区分	非公開
会議を一部公開又は非公開とした場合の理由	委員がより自由な発言をしやすいするため
傍聴人の数	—
審議概要	別紙のとおり
事務局に係る事項	出席者 政策秘書課3名（林リーダー、三森、宮川）
その他	

<p>内容</p> <p>1. 開 会</p> <p>2. 座長あいさつ</p> <p>3. 議題</p> <p>(1) 長期・短期 提言について</p>	<p>次第に基づき以下のとおり進められた。</p> <p>○事務局（林）開会</p> <p>○宿澤座長あいさつ</p> <p>○宿澤座長 長期・短期提言について、事務局が作成した資料について意見ををお願いしたい。</p> <p>○雨宮（康）委員 「三万色が織りなす甲州市」というタイトルは、甲州市の人口約3万人の皆さんの目で甲州市を見ようというもので、自信を持ってこのタイトルでよいと感じた。このタイトルを中心にイメージ図が出来ていると認識している。産業、子育て、観光、地域コミュニティという4つの項目の中で、中央にある「Wi-Fi」という言葉を見て、やはりこれからはWi-Fi頼みで動かなければならないのだと感じた。その他にも「広報戦略」、「仕事」等のいくつかのキーワードがあるが、市民が理解しやすいようなわかりやすい言葉を提示した方がよいと感じた。</p> <p>○宿澤座長 タイトルの「三万色が織りなす甲州市」について、図を用いて、視覚的に共感を呼びかける。これに様々なことを追加し、ブラッシュアップすることで、よりよいものができると考えている。まだ資料を作ったばかりであるので、こういった意見でかまわないので、続けてお願いしたい。</p> <p>○近藤委員 イメージ図について、「Wi-Fi」が真ん中に記されているが、Wi-Fiはあくまでインフラの一部なので、真ん中にくるのは戦略としてどうなのかなと思う。やはりこの中心にくるのは、産業・働き方の長期提言にあるような「都市計画像のあり方」や「若者支援の推進」等で、そこから様々に広がっていくイメージを持った。また、この図は単語が並んでいるだけなので、どういう経緯でこうなったのかというストーリーがあった方が共感を呼ぶのではないか。特に長期提言は「なぜ」</p>
---	---

の部分が多くあると思うので、その背景を知ることのできる資料が付いていたら分かりやすいのではないかと感じた。また、感覚的な話になってしまうが、この文章だと綺麗にまとまり過ぎていて、空白の余地を残すような構成ができればよいと感じた。

○宿澤座長 まとめようとする、やはり行政的な感じになると私も感じている。Wi-Fiが中心でもいいと思うが、「なぜ」という部分が分からず、一人歩きになっているのがもったいない。このイメージ図の中で、見る人に共感ベースで伝えられるような作りこみを皆さんと考えていきたい。

○内田委員 このイメージ図だと、なぜこの単語がでてきたのかという背景が分かりづらいと感じた。多少見づらさはあったとしても、単語や提言に対して、過程の部分を示したものがあった方がよいと感じた。

○宿澤座長 背景の部分はこのイメージ図の中にどう落とし込んでいくかを考えていきたいので、アイデアがあれば出していただきたい。

○雨宮（智）委員 主題で「三万色が織りなす甲州市」と掲げているが、これだけだと分かりづらいので、提言のリード文のようなものを付けたらどうか。今まで話し合ってきたストーリーや主題に込めた思いを示した一言があった方が納得してもらいやすい。イメージ図については、Wi-Fiは全てに関わっているが、中心にくるのは違和感がある。例えば、円を縁取っている部分がWi-Fiがつながる部分で、内側の真ん中には「人」がくるイメージである。人と人の実際のつながりとデジタル空間でのつながりの中で必要不可欠なものがWi-Fiであるので、4つの項目の重点政策として別で出してもよいと思う。リアルな対人関係とオンライン上の二重空間をどう確保していくかが大事であり、そこを図として示していれば分かりやすい。

○松山委員 なぜそうなったのかの過程の部分が重要だと感じる。話し合いのプロセスを経ていないと、いきなり出されても

伝わるものも伝わらない。そのプロセスをどう作っていくかが未来会議のあり方でもある。ここで通用するストーリーが初めて見る方の共感を得られるとは限らないので、今後のワークショップが鍵になってくると思う。

○宿澤座長 イメージ図だけで伝えようとせずに、これまでの背景やプロセスをあわせて伝えていく方向で考えていきたい。

○渡邊委員 この資料を見て、今まで会議に参加していたのに全然内容が入ってこないぐらい味気ない内容になってしまったなという印象を持った。ビジョンをもっと肉付けして、ストーリーが欲しいと感じた。個性や特色等がなぜそうなったのかという部分があると、より政策の説明がしやすいと思う。2040年に向けて、これからAIが活躍する時代になると甲州市の人のつながりや自然が引き立ってくる。ビジョンの部分で共感を呼べたらよいと感じる。一つ一つの政策がビジョンに紐づけられた中で、よりシンプルに訴えかけられるようなイメージ図があるとよいと思う。

○宿澤座長 2040年を見据えて、今やるべきことを語りかけるような図を含めた提言書になるように皆さんと探っていきたい。

○小鳥居委員 「人」があつての甲州市なので、Wi-Fiももちろん重要だが、この図の真ん中にくるのは、「人」なのかなと思う。提言についても、甲州市らしさがあまりなく、普通にまとまりすぎていて寂しく感じた。甲州市の良さである農業、ワイン、もっと外からみた観光のやるべきことなど色々あるのではないか。やはりストーリーがあるともっと分かりやすいと思う。

○宿澤座長 今日をゴールとせず、次回もう一度対面で集まって文言を練り直してもいいと思う。いいものを作っていきたいので、事務局の考え方も取り入れながらやっていきたい。ここで事務局からの返答をお願いします。

○事務局（林） 色々ご意見いただきありがとうございます。説明不足の点があり、今日まとめさせていただいた資料については前回、前々回の対面式での会議の際に出た意見を羅列させていただいたものになる。最後のイメージ図についても、出た言葉をそのまま載せたもので、全部が関係性を持って繋がっているということを示したものである。全ての話の中で Wi-Fi が出ていたのであえて真ん中に載せ、他の言葉についても数多く発言として出てきたものを選び載せさせていただいた、あくまでもイメージである。

今回、提言書という形でまとめていくことになるが、そもそも誰に向けての提言書なのかを考える必要がある。市民に広く向けてなのか、あくまでも市長に向けてなのかなど、それによって書き方が変わってくると思う。今まで皆さんに参加いただいた部会の議事録や対面での会議で出た様々な意見がある程度そぎ落として簡潔にまとめたものがこの資料になる。これが提言書の体裁というわけではなく、これまでの話を皆さんと振り返り、理解することを目的に図も作成したものであるので、ここから市民や市長に分かるようどうまとめていくかを考えていく。

短期提言はどの程度のボリュームにしていくのか、また、作り込んでいく際に、事務局と委員の皆さんとの関係性の中で役割分担をどうしていくのがいいのかを相談させていただきたい。参考として、戦略会議から提出されたぶどうの丘に関する提言書は、特段、市で体裁や内容について指示はせず、戦略会議の委員さんで全てまとめていただいた。それに対して未来会議の提言は、9名の委員と事務局でどのようにまとめていくか。4つの部会テーマごと分けて書いていくのか、それとも関連しあう部分も多いので、テーマの枠を取り払った形で書いた方がいいかなど、皆さんと意思確認をし、共有するための意見をお伺いしたい。

○宿澤座長 市長に向けてというより市民を巻き込んで市役所へ提言するイメージだと思う。役割分担との話もでてきたので、市民を巻き込んで共感を生むようなイメージを描ける委員がいればやっていただきたい。もしくは、事務局にお願いするしかないということならば、事務局に作成してもらったものに

私達が修正を加えていく。文言や体裁は変えていけるので、結局は、全てが繋がっているということが伝われば良いと思うので、皆さんからの意見を出していただきたい。

○雨宮（康）委員 会議に入る前の委員側の準備不足も感じた。電子データの資料が見られず、事前準備ができなかったため、今回の会議も時間がもったいないと感じた。会議資料提供方法について別の方法を取るなり、座長が忙しければ代理を立てるなり、まず準備の問題をクリアする必要がある。イメージ図については、我々委員が感じたことや意見を事前にグループLINE等で共有して、次のオフィシャル会議には、発表していくという立場でいかなければならないと感じる。

○事務局（林） 事前に皆さんに資料を見ていただかないと意見も言いづらいと思うので、資料の配布方法について再度検討したい。今回書き出した文言については、前回の会議の際に委員の皆さんから付箋に貼ってもらった意見を書き出したので、今日のところは、資料を見て率直な意見をお願いしたい。まずは、短期的提言をまとめていく必要があるので、短期的視点部分を抜き出して、もう少しその背景がわかるようなことも過去の議事録から拾う中でまとめていきたい。それを皆さんに見ていただいた後で、次の会議を開催する方がいいと感じた。また、最後につけたイメージ図についても市民に見せていく上では、やはり必要かどうか皆さんに伺いたい。

○雨宮（康）委員 文章だけでは理解しにくい部分を補うためにもイメージ図はあった方がよい。委員間でGoogleドライブにより情報を共有しているが、使用方法がいま一つ理解できていないからか、資料を正確に見ることができない。

○事務局（林） 今度は、事前に資料が共有できているかの確認を取った上で、進めさせていただきたい。

○宿澤座長 私も確認不足で申し訳なかった。

○近藤委員 私のGoogleドライブでは資料が見つげにくかったので、今後はそれに気づいた時点で事務局に連絡しようと思う。座長から共有してもらった資料がPowerPointだったので、これに書き込む形で共有するのはどうか。まず、短期的提言とのことだが、短期的提言と長期的提言は関連している部分が多くあるので、短期的提言の背景には長期的な部分があることを上手く見せていけたらと思う。短期的なところにも長期的なところのものを落とし込んだ意見が書けるといい。

○宿澤座長 短期的なものを追いながら長期的と関連づけていき、その先に見えるのが最終的な長期的提言につながるという意見だったが、まさにその通りだと思う。

○雨宮（智）委員 長期的提言の4つの部門に連動性がないと感じた。各部門に対する問題ばかりが書かれていて、縦割り行政っぽさが出ている。各部門の長期目標は1つに絞り、例えば、子育て教育は、「郷土愛を育む」を長期として、「学校のあり方」は、中期的な感覚で短期的に下す。観光移住定住は、「ぶどうの丘」を短期に下して、長期は「既存の土地や建物の有効活用」とする。振り分けの仕方と分かりやすさと関連性を考えていく。イメージ図は最後に表すものであるので、文章や振り分けをもう一度細かく分類するほうがよいと感じる。その上でWi-Fiのように重なってくる部分は共通重点課題としてあげていく。そうするとすごく大事でやらなきゃいけないものだと分かりやすくなる。そもそも我々のやるべきことが、市民の共感を得た上で市長に対して提言するのであれば、今回は市長にではなく、住民へのワークショップに向けてのイメージ図を作成する方がいいのではないか。具体的な提言はイメージを刷り込んでしまうことになるのでもっと大きいぼんやりとした思いみたいなものを書いた上で意見を聴かせてもらうのか、または、我々の提言案に対して意見をもらってブラッシュアップするのか。その辺の中間のゴールをはっきりさせないとフレームを作ることができない。ワークショップの形が定まっていなくて何を求めるのかが分からないので、ワークショップに向けて何をどこまでしていくのかを皆ではっきりさせていきたい。

<p>(2) ワークショップの開催について</p>	<p>○宿澤座長 この後はワークショップについてのあり方も考えながら、意見を伺えればと思う。</p> <p>○内田委員 前回会議で出ていた、「すべては人と産業とそれを活かすシステムに分けられる」を用いて、図や文言を出していけたら分かりやすいと感じた。人は、若者やシルバー、1日農業バイト等。産業は、甲州市らしさの部分。それを活かすシステムがWi-Fi。それらが見えることによってビジョンが明確になって将来像につながってくるという話がしっくりくる。</p> <p>○松山委員 我々が作ったものをもう一度市民に向けて共感してもらおうということはかなりエネルギーが必要である。例えば、一度ここで短期的提言を市長、副市長に向けて出していき、1つでも2つでも成立させて、成功事例を得るのはどうか。そうすることで、甲州市未来会議を通じて市民の声を市政に反映できるのだということを示すことができる。一旦ここで区切りをつけて、ワークショップはまた新たなチームに委ねていくのもいいと思う。この会議で積み重ねてきたプロセスをもう一度共有するのは少々難しいと感じる。今まで様々なワークショップに参加してきたが、ほとんどがアイデア出しで終わってしまい、その後何か成立したという経験はない。今回は、ぜひ終着点を見てみたいという思いもある。もし、ここで話した内容を市民に共有してほしいという視点があるのであれば、文章ではなく絵で表現してもらおうグラフィックレコーディングも一つの方法かなと思う。お金は掛かるが一つのアイデアとして受け止めてほしい。</p> <p>○宿澤座長 一旦ここで、市長、副市長に短期提言を出していくということも、皆さんの合意が必要になるがあたりだと思う。ワークショップに限らない市民に向けた共有のあり方について、皆さんへの負担がさらに増えてしまうことが懸念されるが、皆さんがやろうという気持ちであれば、私もぜひ頑張りたいと思うので、意見を聴かせてほしい。</p> <p>○渡邊委員 できるだけ紙ベースでの資料提供は避けてもらい、資料の確認もLINE等を使っていければいいと思う。ワーク</p>
---------------------------	---

ショップについては、ピンと来なくなってしまった。そこを明確にしないと全体的に「もやもや」してしまう。ワークショップをやる意義は、対話や横のつながりに加えてこの未来会議の存在を認知してもらうことでもあると思うのであわせて考えていきたい。

○宿澤座長 今、議論していることとワークショップとゴール地点が上手くつながれば、見えてくると思うが、私自身も「もやもや」している状態である。中間のゴール地点を設ければ、事務局も動きやすくなり、図も分かりやすくなるのかなと思う。

○小鳥居委員 ワークショップはどこにゴールを置くかで、やる内容も異なってくる。別件で、塩山高校で2回のワークショップを行ったが、1回目より2回目は意見も活発に出て楽しい雰囲気が進められた。学生間でも緊張感があるものなので、初めましての市民であればなおさら回数を重ねないと真の意見は出てこないのではないかな。

今回の資料を見て、普通で甲州市らしさがないと感じたので、今までの部会で話したことを振り返ってみた。シルバー世代の方と子どもたちが児童クラブで触れ合う、市役所の入口にポップアップスペースを設ける、産業短期大学校と農業大学校で30歳から学ぶ農業、自治組織である組の役割のスリム化、デマンドバスに関する事など出ていたが、そのことが一つも載っていなかったのが、短期的視点という部分で私たちも前回の1回だけでは意見を出し切れなかったと感じる。

○宿澤座長 ワークショップのあり方について、市民の皆さんを対象に何回も開催するというのは現実に難しいと感じるが、1回でゴールを求めるのも酷かなとも感じる。そこをどう落としどころをつけるか皆さんの意見を聴きながら考えていきたい。提言書については、市民への共感を得るために、どうしていくかをもう一度集まって考えるのもありだと思う。そうはいつでも今回ワークショップのあり方は本日決めていきたいと思うので、中間のゴール地点等含める中で意見をお願いしたい。

○雨宮（康）委員 ワークショップについては、意見シートに書かせてもらったが、それに加えて「私達×甲州市 20年後のまちの姿をみんなで考えよう」というテーマを考えてみた。チラシを作成、配布し周知する。年齢層はフリー。それ以外に甲州市内の小中高大学生、子育て中の方、中高年層を想定している。人数は20名ぐらいを想定。内容は産業働き方、観光、子育て、地域コミュニティのテーマごとグループで語り合う。回数は4回、テーマはローテーションで回す。原則4回出られる方を募集する。

○近藤委員 いくつか世代を分けたりするのであれば、子育て中のお母さんに向けたワークショップもあつたらいいと思い、意見シートには書かせてもらったが、今日の皆さんの話を聴く中で、考えがまとまらなくなってしまった。ゴール地点のためのワークショップではなく、おしゃべり場のような会も楽しいと思うが、全くテーマを決めず、自由にやってもらうのではワークショップにならない気もするので、そのバランスが難しい。

○雨宮（智）委員 「もやもや」で片づけていいことと片づけてはいけないところを我々は混合し始めているかもしれない。「もやもや」のままでもいいところと、形として決めていくところは決めていく。例えば、形も全員から意見を聴くとまとまるものもまとまらないのであれば、原案としていくつか出てきた中で選んで手を加えていくなど、そろそろその話し合いから決定の方に向いていかないとワークショップを作れない。

例えば、初期の段階であればワークショップをどんどん重ねて、市民からの意見を多く集めて市長に提案する代表者として未来会議が存在するのか、または、僕らが意見を集めた上で答えを出して、多く出てきた意見を取りまとめて、僕らなりの提案をするのか。

要求をして2、3決めていくということは、ゴール地点を決めていることなので、あまり突っ込んだ意見であると、何も実現はしないで終わってしまう。実現しやすくして市役所と協働しやすいことがあれば、それはひとつの成功として捉え、成功例を積み重ねて、ワークショップは無駄じゃないよという情報を市民

に発信していける。だが、今のままワークショップを行うと、僕らの意見はどうなったのかとか言いたい放題を言って最終的には解決してくれますよねとなるとちょっと困ってしまう。愚痴とかネガティブな話にもっていかれてしまうとつまらないことになってしまう。未来会議としての機能が僕らに委ねられている以上、1年余りそこが決まっていなかったのが「もやもや」な部分である。今日皆さんに、ワークショップを何のために集めて、どういうことができるよという魅力で、自分の時間を使って市民に参加してもらおうのかというところを、ある程度明確に意見を聞かせてほしい。

もう決めていかないといけないタイミングだと思う。私であれば、具体的に市に対して、よりいい市になるためのポジティブな提言書を作る中の材料をください。という言い方をする。それであれば、あくまで材料であるので、結果は全部ネットに掲載し、意見があればメールやインスタ等へ書き込んでもらい、オープンな形で戻していく。

そういうところまで決めないと大変かなと感じる。皆さんはどういうやり方でどういう思いでワークショップを開きたいのか聞きたい。

○宿澤座長 ワークショップのあり方について、皆さんのそれぞれ違う意見をまとめるというのはかなり難しいが、「もやもや」のまま次の会議に持ち越そうというものではないので、今日まとめていきたいと思う。我々のやろうとしていることと上手くリンクさせていけるとよいと思う。皆さんのワークショップのあり方を具体的に出していただきたい。

○内田委員 ワークショップの一番核となる部分は、市民の方々の声を聞きたいということである。ワークショップを開いたところで、自分の時間を使って参加してくれる人がどれだけいるのか、そもそも未来会議の存在自体を知られていないのに来てくれる人はいるのか。もちろん知り合い伝いでいるかもしれないが、それがしたいのかと言われると微妙である。ワークショップではなくて、市民同士が対話できる場を1日だけでも提供するというのはどうだろうか。例えば、公園でピクニックをしながら、甲州市の未来について語り合うといったようなイベ

ントを開催する。話題づくりも含めた中で、チラシやネットで情報を出して、甲州市の未来について考えてもらうきっかけとできたらいいと思う。

○宿澤座長 ピクニックのような何かとタイアップさせて集客していくというのも有効だと思う。ゴール地点や内容をどう生かしていくかが大事になってくるので、それも踏まえて皆さんで意見をすり合わせていきたい。

○松山委員 ワークショップひとつ考えても、自分たちで成功例を知っていない。ワークショップに参加しても発散まではいくがそこからの収束がない。自分たちが出した意見はその後どうなったのかは知ることがないと感じている。そもそもこの話し合い自体が収束していないと感じるので、会議のあり方についても一度学ぶ場を作ってもいいと思う。

また、ここで一度、この未来会議のメンバーで話した、重要なテーマについて市長や副市長に提案して、成功例を作りあげていく。そこで未来会議の認知度を上げていくというのも戦略のひとつだと思う。アイデアを市民から出してもらうという段階ではなく、話し合いのあり方、仕方を学ぶことを自分たちもしていかないと今後行き詰っていくと思う。話し合いの大切さを一人でも多く学んでもらうことが長期的視点で大切だと思っている。短期的には、市長、副市長へ今までの活動内容を報告して、その成功をもってワークショップに臨むというのもひとつの手だと考える。

○渡邊委員 ワークショップをやるというならば、やはり生産性のない対話より、参加者の方も参加してよかったと思えることや、それを踏まえて意見は採択されるという部分はあるべきだと思う。自分の成長につながる部分を感じられないと自分の時間を使ってワークショップに参加してもらうことは難しい。ワークショップは綿密なものであると考えているので、時間的に厳しい気もするので、まずは中間的に市長へ報告をして、そこから可能性を感じるワークショップもありだと思った。

○小鳥居委員 甲州市の開催するイベントで人が集まっている印象があまりない。人が集まりすぎてもまとまらないとも感じているので、オンライン開催や、青年会議所のイベントとのコラボ開催、意見箱を設置する等考えてみた。ただ、そもそもワークショップをやる意味を考えていく中で、我々は未来会議として、ここで一度中間提言を市長へ報告してみるのもいいと思う。

○宿澤座長 皆さんの意見をまとめると、来月に中間のゴールを見極めた上でワークショップを開催するのは現実的に厳しいと感じた。我々の政策提言に対する意見取りという形であれば可能かもしれないが、提言自体もまだ綿密にはなっていないので、これを強固なものにしていく必要がある。ワークショップを開催するゴール地点やこうやっていきたいという明確な意見が出てきていなかったのが現実的に厳しいかなと感じた。最後に雨宮（智）委員の意見を聞きたいと思う。

○雨宮（智）委員

そもそもの部分であるが、我々は最初に市長と十分に対話をしてこなかった。我々も委員を受けた以上、我々を含め色々な方の思いを市長に伝え、市長も市長の思いを直接伝えてほしかった。

やはり市長がどういう思いなのか、協力体制も含め、全てフィルターがかかったまま話を進めてきてしまった。また、事務局以外の市役所の各課の方々とも話をしないまま、我々が市民目線と言いながら作ったものを市長に提言してもいい結果がでるのか不明である。対話も共感も市長とも市役所ともしてないので、このままで大丈夫かなと感じている。ワークショップは、最終的には、コミュニケーションが深まって、人が集まってくることが大切である。韮崎市はそういったワークショップに人がたくさん集まってきて活気があると聞いた。また南アルプス市でもNPO 団体が常時対話する機会を仕掛けて、色々な人を繋ぎながら活性化させている。そういう政策のために呼び出す対話ではない対話をつくっていくことが将来に向けて大切になるので、その仕組みづくりは長期に向けて今から取り組んでいくべきだと感じる。今回のワークショップとは別で行っていくイ

メージである。語り合う中で、前を向いた意見を言うパーソナリティな部分を甲州市の若い世代に根付かせていかなければならない。ワークショップはやるのなら我々が考えてきたことを素直に出ししてみるのがいいと思う。短期目標は具体的過ぎるので、長期的視点について丁寧に説明をした上で意見をもらい、我々が代表として取りまとめて市へ提言していく。我々が描いた4つの柱について何でも意見くださいというような甲州市民の思っていることを聴く会にしたらどうか。幅広く意見を集めるためにも直接来られない人に対しても様々な方法でアクセスできるようにする。名前を添えて言いつばなしにならないようには配慮する。未来会議のことを知らない人が多い中で、どう参加者を集めていくか。人伝いに声をかけて掘り起こしていくのか、完全自由公募にするのか等やり方次第で大きい影響を与えると思う。できるだけ幅広く意見を集められるようなやり方で開催できればと思う。ビシッと決めるワークショップの開催は難しいと感じている。

○宿澤座長 まさにそうだと思う。ただ、来年の予算をつけて政策に生かしてもらうためには、市民の意見を乗せた政策提言を8月頃出していく必要がある。そのためには、7月にはワークショップを開催したいとの戦略で考えていた。ワークショップという形にするとやはりゴール地点が必要になるが、意見取りということであればこのままのスケジュールで7月開催も可能であると思う。ワークショップを追いながら政策提言をよりブラッシュアップしていく必要があるので次の会議を先送りにするということとはできない。皆さんで集まって議論をしながら考えていかないとイメージ図も政策提言も仕上がっていかないと思う。一旦、ワークショップを取り払って、意見取り等も含める中で、7月に開催するかしないか今日決めていきたい。皆さんいかがか。

(一同 発言なし)

○事務局(林) 当初事務局の方でイメージしていたワークショップの目的は、未来会議での議論に、広く市民の皆さんにも参画してもらいたいということであった。一般的な行政の手法であるパブリックコメントに代えてワークショップを開催し、

興味のある方から意見聴取をしたらどうかと考えた。市民の方の声を拾い上げたものをまとめて提言していくのか、それとも提言の骨子を作り、それを市民の方に諮っていくのかのどちらかだと思う。どちらにしても、未来会議の委員さんの意見に市民の方の意見を乗せることで、より提言書に厚みを持たせることができると考えている。短期提言に間に合わせるには8月か遅くとも9月上旬までには開催し、9月中の取りまとめに間に合わせていく必要がある。経験則から、こういった手段をとっても一長一短があるので、どういう形で市民の方を巻き込んでいくのがいいのか、また未来会議について知ってもらうにはどういう形で持っていくのがいいのか等、皆さんでご意見出させていただく中で絞り込んでいきたいと考えている。

○宿澤座長 市長との意見交換会の場を設けてもらうのも面白いと思う。それを踏まえて、市民の声も乗せた上で再度市長へ提言する。そのための意見を聞く会という形で、7月か8月に開催できればいいのではないかと感じた。今日出た意見を踏まえ、再度事務局で政策提言案の作成してもらい、今月もう一度みんなで集まりたいと思う。図のアイデアや政策提言に関する意見等あれば事前に意見をあげてもらい、それも加味した中で事務局にまとめてもらえればと思う。

○事務局（林） 先ほど雨宮（智）委員から、そもそも市長と対話をしていないと話があったが、事務局としても市長への経過報告的なものを行ってこなかったのは気になっている部分である。例えば、中間提言の前に、代表の方と市長で経過報告、中間報告的なことをやっていただくのもいいと思っている。また、今日も貴重なご意見をいただいたので、議事録にまとめさせてもらい、再度本日の資料を精査し、皆様に提供させていただければと思う。次回の会議が今月中ということであれば、6月27日（月）が現実的であるかなと思うが皆さんはいかがか。

○宿澤座長 今日決めきれなかったこともあるので、次回会議を27日に確定させてもらえればありがたい。事務局で資料を作成、提供してもらい、事前に意見をいただければと思う。先ほどの市長との対話の件は、できれば9人対市長でやりたいと考え

	<p>ている。そういう場を設けてもらえるのであれば、早めにやって、それを踏まえて、市民の意見を聞いて政策提言していければと、今日のまとめとして感じた。次回それについても決定していきたい。事務局で政策提言書をプロに外注したいのであれば、そうしてもらえばいい。今のまま委員さんに提言書をまとめてもらうのは厳しい。</p> <p>では、次回の27日の出欠については、連絡をお願いします。</p>
4. その他	なし
5. 閉 会	○事務局（林）閉会